NMSH Topics 34 VOL.
October 2019

今月の 院長のイチオシ　消化器・肝臓内科／内視鏡センター

内視鏡検査・治療体制を強化
幅広い疾患を迅速・正確に診断

- POINT 1　内視鏡検査・治療体制がより充実。検査までの待機期間が短縮され、夜間も緊急対応可
- POINT 2　上部消化管、下部消化管、肝胆膵の専門家が常駐し、外来で高度な専門医療を提供
- POINT 3　良性疾患も積極的に診療し、高度な特殊検査を駆使して原因を究明する数少ない施設

上部消化管内視鏡は初診から1週間、下部消化管内視鏡は2〜3週間のうちに検査

消化器・肝臓内科では、消化管と肝臓・胆嚢・膵臓の疾患全般を診療しており、最近では特に内視鏡を用いた検査・治療に力を入れています。2017年10月30日には新病院に新内視鏡センターがオープンし、より充実した診療体制が整いました。上部消化管内視鏡は初診から1週間程度、下部消化管内視鏡は2〜3週間のうちに検査が可能で、迅速に診断を下せるようになりました。小腸のダブルバルーン内視鏡やカプセル内視鏡、肝胆膵の内視鏡検査も実施しています。

また当科は、悪性腫瘍だけでなく良性疾患も積極的に診療していることが特徴です。通常の治療では改善の見られない食道、胃の機能性疾患に対し、内視鏡検査、内圧検査、多チャンネルインピーダンス・pH検査、胃運動検査などのあらゆる方法を駆使して原因を究明する都内唯一の施設です。逆流性食道炎の約3割、非びらん性胃食道逆流症の約5割は薬剤抵抗性といわれています。対応の困難な症例がありましたら、遠慮なくご紹介ください。

悪性腫瘍の疑いがあれば、特殊光・拡大観察システムを用いた内視鏡検査を行い、腫瘍の存在、範囲、深達度を精密に診断。可能な場合は内視鏡による治療、外科的治療が必要な場合には、当院の消化器外科を紹介いたします。当科と消化器外科は一体となって診療を行っていますので、外科的治療が必要な場合もスムーズに対応でき、安心です。

さらに胆石の疝痛（せんつう）発作や消化管の吐血は夜間に起こることが多いため、当科では夜間も内視鏡検査を行う医師を2人待機させ、緊急対応が可能な体制を敷いています。また外来では毎日、上部消化管、下部消化管、肝胆膵のスペシャリストが診療していますので、患者さんの都合に合わせてご紹介いただけます。

各消化管・肝胆膵の専門家が集まり、力を合わせて患者を診療する

2017 年度　消化器・肝臓内科の診療実績

外来延べ患者数	37,701人
入院延べ患者集	25,673人
上部消化管内視鏡検査	5,595例
内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）	胃・食道 160例 大腸 59例
大腸粘膜切除術（EMR）	559例
下部消化管内視鏡検査	3,610例

胆道膵臓内視鏡	258例
ダブルバルーン内視鏡	110例
カプセル内視鏡	86例
肝細胞がんに対する肝動脈塞栓療法（TACE）	90例
肝細胞がんに対するラジオ波焼灼療法	16例
BRTO	5例

日本医科大学付属病院
NIPPON MEDICAL SCHOOL HOSPITAL
〒113-8603　東京都文京区千駄木 1-1-5　代表 03-3822-2131　患者支援センター　医療連携部門
URL: https://www.nms.ac.jp/hosp/